

路線別現況・特性調査におけるバス路線等の評価方針について（案）

1 目的

バス路線や交通結節点等を評価するための方針を設定する。

2 バス路線

(1) 評価の視点

バス路線については、以下の3つの視点から各路線の評価を行う。

・視点1 立地適正化計画等との整合性

立地適正化計画（現在は素案）で示されている将来都市構造において、高次・広域拠点、生活拠点、居住促進エリア、拠点連携軸が設定されており、この都市構造の実現に資することが想定されるバス路線を評価する。

また、第2次秋田市公共交通政策ビジョンもふまえて評価する。

・視点2 利用者の利便性確保

公共交通の維持の観点において、利用者数の確保が重要であることから、利用者の視点で利便性の高いバス路線として、ピーク時のバス運行頻度、バス停圏域内人口、集客施設の有無、乗降状況、鉄道駅との接続性を評価する。

・視点3 輸送状況・利用需要

公共交通の維持の観点において、収支状況が重要な視点であることから、交通事業者の視点で、運送収入、収支状況、輸送密度を評価する。

(2) 評価項目 (案)

視点	評価項目	考え方
視点 1	立地適正化計画における位置づけ ・高次・広域拠点 ・生活拠点 ・居住促進エリア ・良好な住環境の維持・形成エリア ・拠点連携軸形成	・立地適正化計画で目指す都市構造を実現するため、高い公共交通サービスを必要とする拠点、エリア、連携軸に該当するバス路線を高く評価する。 ・特に高次・広域拠点アクセスと生活拠点の地域間連携型については幹線バスの要素として高く評価する。
	公共交通政策ビジョンにおける位置づけ	・公共交通政策ビジョンで示されている都市構造で幹線バス路線と想定されている軸に該当する路線を高く評価する。
視点 2	バス運行頻度 (ピーク時)	・利用者の利便性確保の観点で、運行頻度の大小でバス路線を評価する。
	バス停圏域内人口	・利用者需要の観点で、バス停圏域内人口 (潜在的な利用者需要) が多いバス路線を評価する
	主要集客施設の有無	・利用者需要の観点で、バス路線沿線の主要集客施設の有無で評価する。
	利用者乗降状況特性 (定期券利用状況)	・利用者需要の観点で、バス定期券販売実績より、乗降状況を集計し、利用者が多いバス路線を評価する。
	鉄道駅との接続性	・既存の公共交通軸である鉄道駅との接続の有無でバス路線を評価する。
視点 3	運送収入	・バス路線の持続性の観点で、バス路線の運送収入の大小で評価する。
	収支状況	・バス路線の持続性の観点で、バス路線の収支の大小で評価する (採算性が確保できる路線)。
	輸送密度	・バス路線の持続性の観点で、バス路線の輸送密度の大小で評価する。

- ・現況調査を実施する中で、各視点で重要と考えられる項目を適宜検討する。
- ・その他、今後の施策展開の検討への参考として、バス旅行速度、遅れ時間、主要拠点までの運賃などの現況についても整理する。

3 交通結節点等

(1) 評価の視点

バス路線の評価結果により検討する。

(2) 評価項目

バス路線の評価結果により検討する。